

日本版ISAの道 その17

NISAは来年末までに500万～1000万件/5兆円の可能性!
英国ISAや日本のネット投信を見てわかるネット活用の鍵は
50才代や60才代への情報提供も疎かにしないこと

※国際投信投資顧問 投信調査室がお届けする、日本版ISAに関する情報を発信するコラムです。

日本版 ISA(NISA/ニーサ)は来年末までに 500 万～1000 万件/5 兆円の可能性!

2013年6月19日(水)付日本経済新聞朝刊に「来年1月から始まる少額投資非課税制度(日本版ISA=NISA)の活用に必要な口座の開設予約が急増している。制度開始までまだ半年ほどあるが、大手証券やインターネット証券が受け付けている事前の予約はすでに150万件前後にのぼったもようだ。」と報じられていた。この様に、日本版ISA(Individual Savings Account 少額投資非課税制度、愛称「NISA/ニーサ」)が来年大きく拡大する兆候が出ている。

日本版ISA(NISA/ニーサ)の口座開設予約だが、ネット証券が税制改正法の成立した3月29日(金)前後から開始しており(*最も早いところは3月25日から開始しており)、その時点から3カ月も経過せず150万件前後になったということである。日本版ISA口座は2013年10月から開設可能となるが、それまで3カ月以上ある。つまり、この150万の2倍である300万件に、開設前において既に到達する可能性がある。

さらに、開設可能になった後の2013年10月から2014年12月末までに15ヶ月の期間がある。仮に先の月50万件ペースが続くとすれば、300万件に750万件が「オン」されることとなり、2014年12月末までに約1000万件となっても不思議ではないこととなる。この1000万件に年間投資上限額100万円を掛けると約10兆円、また、英国ISAの平均拠出率51.2%を掛けると約5兆円となる(*英国ISAの平均拠出率51.2%は下記参照のこと)。



<英国ISAの平均拠出率>

2011-2012年度の英国ISA・株式型ISAは290万口座、拠出額合計158億英ポンド(約2兆円)となっているので、1口座あたりの平均拠出額は5473英ポンド(約69万円)となる。2011-2012年度の英国ISAの年間投資上限額は10680英ポンド(約135万円)であり、先の5473英ポンド÷10680英ポンドで51.2%となる。

*英ポンドは2011-2012年度の平均である126円を使用している。

(出所: 英国歳入関税庁/HM Revenue & Customs/HMRC、英ポンドはブルームバーグより)

もちろん、今後の口座開設ペースと市場環境次第で不確定だが、2014年末までの500～1000万件/5兆円は十分あると言える。これは、「日本版ISAの道 その14」で述べた「カナダ版ISA『TFSA』を見ていると、日本版ISA(NISA/ニーサ)が2014年に5～600万人、4～5兆円となる可能性は十分あると言えそう」とも整合性がある。

[参考ホームページ]

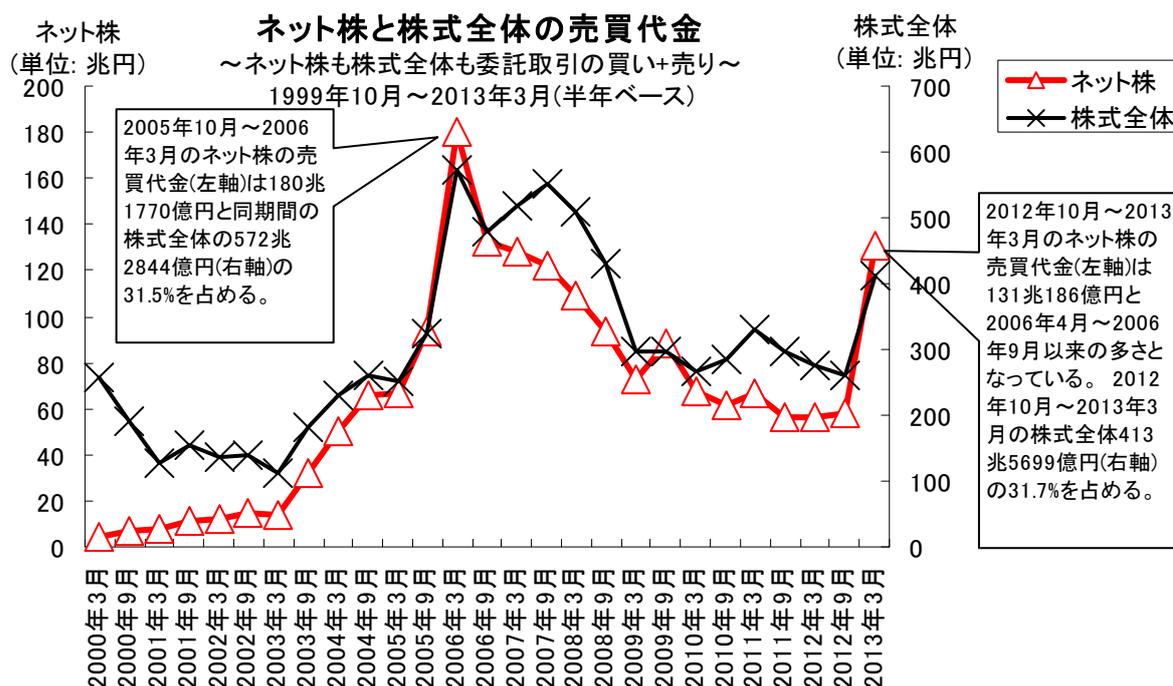
2013年6月19日付日本経済新聞朝刊「少額投資非課税制度のNISA、口座予約150万件 開始まで半年、関心高く」…「http://www.nikkei.com/article/DGKDASDC1800E_Y3A610C1EA1000/」、2013年6月3日付日本版ISAの道 その14「カナダ版ISA『TFSA』を見ていると、日本版ISA(NISA/ニーサ)が2014年に5～600万人、4～5兆円となる可能性は十分あると言えそう～日英加の少額投資非課税制度比較～」…「<http://www.kokusai-am.co.jp/news/jisa/pdf/130603.pdf>」、英国歳入関税庁/HM Revenue & Customs/HMRC「Individual Savings Account(ISA)」…「<http://www.hmrc.gov.uk/isa/index.htm>」。

英国 ISA や日本のネット投信を見てわかる日本版 ISA(NISA/ニーサ)のネット活用の鍵は 50 才代や 60 才代への情報提供も疎かにしないこと

日本版 ISA(NISA/ニーサ)の口座開設予約で先鞭を付けたのは、先述通り、ネット証券である。これは本家英国の ISA でネットの活用が多いことが一因と思われる。英国の ISA では、銀行などの ISA でもネットが活用されているのだ(ウェル KAM-NISA [Vol.2]~URL は後述の[参考ホームページ]を参照)。また、英国の ISA ファンドの販売において、ネットを通じ投信等を提供するファンド・プラットフォーム(Fund Platforms/棚台)会社が最大のチャネルであることも一因と思われる。英国の投信全体において最大チャネルとなっている独立金融アドバイザー(Independent Financial Advisers/IFA)も多くがこのファンド・プラットフォーム会社を活用しているという(*このあたり、ISA ファンドの販売に関する英国の最新動向については、この「日本版 ISA の道」で近く掲載する予定)。

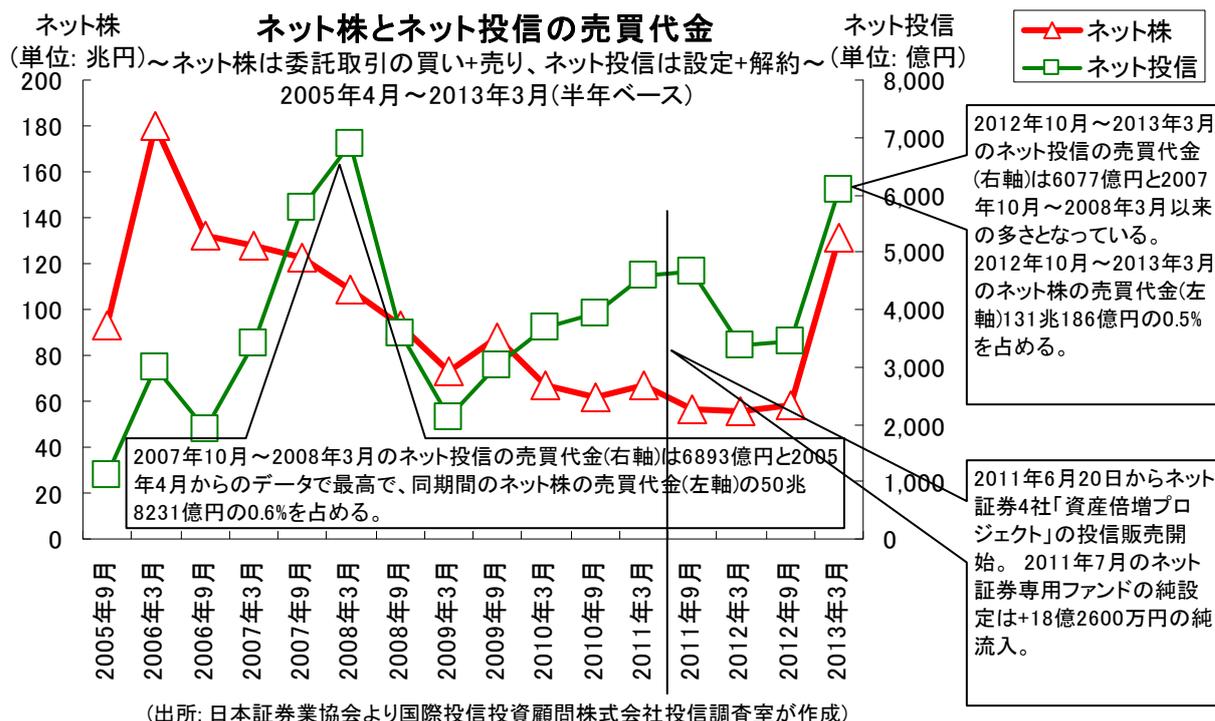
日本版 ISA(NISA/ニーサ)でもネットの活用が期待される。2013 年 5 月 31 日(金)に日本証券業協会より「インターネット取引に関する調査結果(平成 25 年 3 月末)」が公表されたので、ここで、日本の投信を含むネット取引を概観することとする(「インターネット取引に関する調査結果」は後述の[参考ホームページ]を参照)。

日本証券業協会より公表されたデータを使って下記にグラフ「ネット株と株式全体の売買代金」を作成した。今回発表された 2012 年 10 月~2013 年 3 月のネット株の売買代金は 131 兆 186 億円と 2006 年 4 月~2006 年 9 月以来の多さとなっている。2012 年 10 月~2013 年 3 月の株式全体 413 兆 5699 億円の 31.7%を占める。日本でのネット株の普及はかなり進んでいる。



(出所: 日本証券業協会より国際投信投資顧問株式会社投信調査室が作成)

ではネット投信はどうだろうか? 次頁にグラフ「ネット株とネット投信の売買代金」を作成した。今回発表された 2012 年 10 月~2013 年 3 月のネット投信の売買代金は 6077 億円と 2007 年 10 月~2008 年 3 月以来の多さとなっている。ただ、2012 年 10 月~2013 年 3 月のネット株の売買代金 131 兆 186 億円の 0.5%を占めるに過ぎない。先のネット株に比べて 2012 年の落ち込みは小さいものの、全体に占める割合はネット株より、かなり低い感じである。

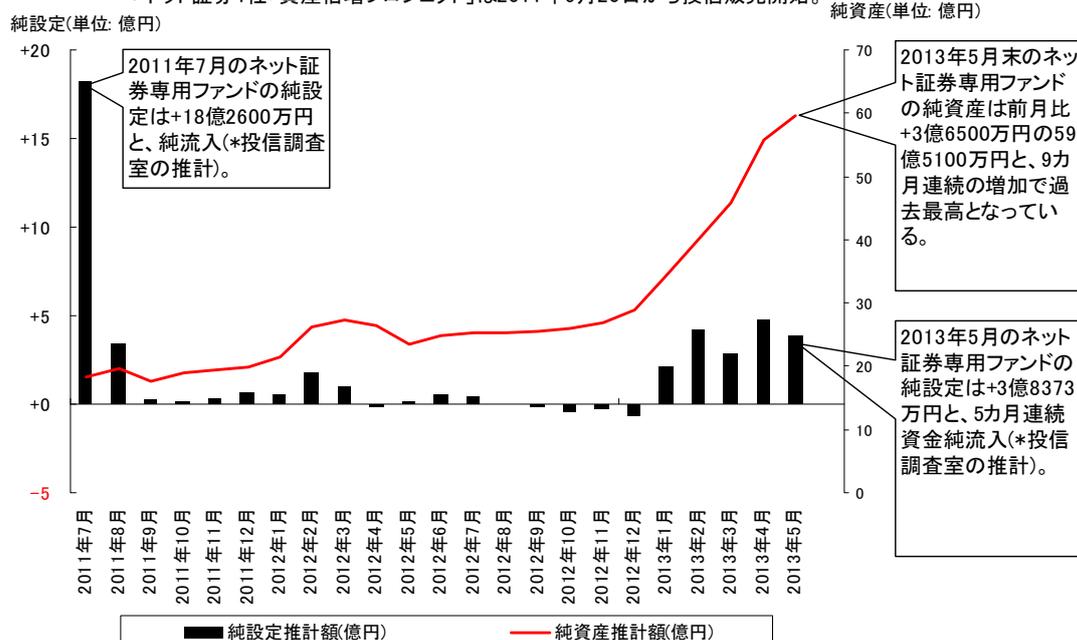


このネット投信の低い割合を上昇させるべく、インターネット証券主要4社(SBI証券、楽天証券、マネックス証券、カブドットコム証券)が「資産倍増プロジェクト」を2011年3月2日に発表、2011年6月20日から投信販売を開始している(「資産倍増プロジェクト」は後述の[参考ホームページ]を参照)。下記にグラフ「ネット証券専用ファンドの純資産と純設定(推計)の推移」を作成した。2013年5月末のネット証券専用ファンドの純資産は前月比+3億6500万円の59億5100万円と、9カ月連続の増加で過去最高となっている。2013年5月のネット証券専用ファンドの純設定は+3億8373万円と、5カ月連続資金純流入である(*投信調査室の推計)。

ネット証券専用ファンドの純資産と純設定(推計)の推移

(2011年7月末~2013年5月末、月末データ)

*ネット証券4社「資産倍増プロジェクト」は2011年6月20日から投信販売開始。

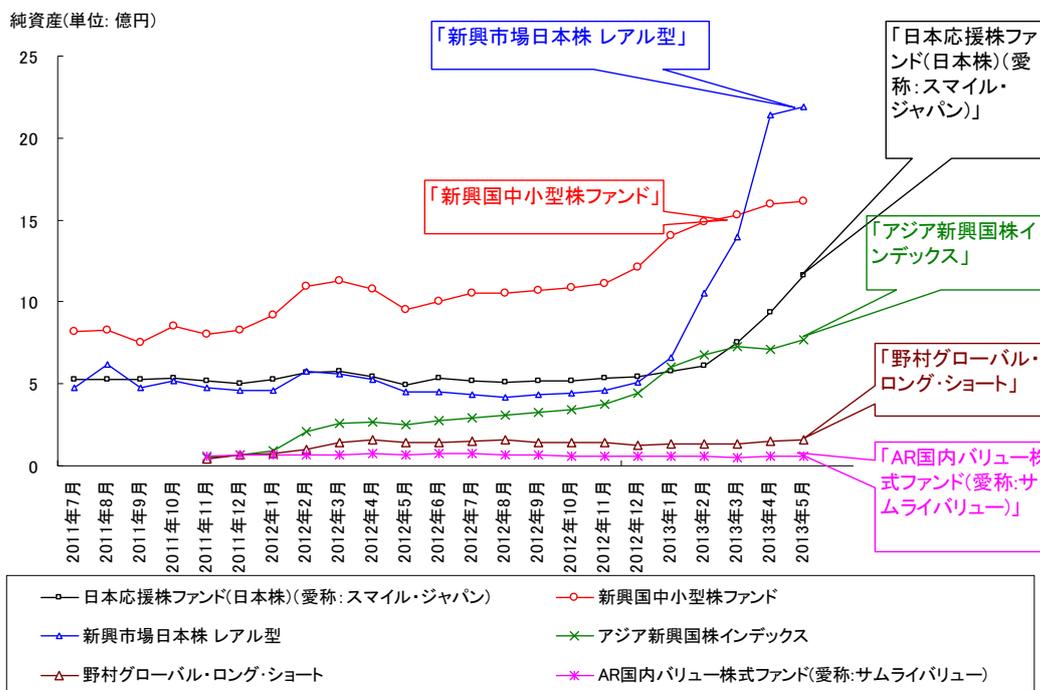


(出所: ブルームバーグより国際投信投資顧問株式会社投信調査室が作成)

さらに下記にはグラフ「ネット証券専用ファンド個別ファンドの純資産の推移」及び「同純設定(推計)の推移」を作成した。「ネット証券専用ファンド」のラインナップに、国内債券ファンドやグローバル債券ファンド、ネットでも人気のREITファンドなどが無い為、一概に言えるものはないが、「新興市場日本株 レアル型」や「新興国中小型株ファンド」などが人気の様だ。飽くまでも株式ファンドとして見て欲しいが、ネットで人気を集める商品の参考になる。

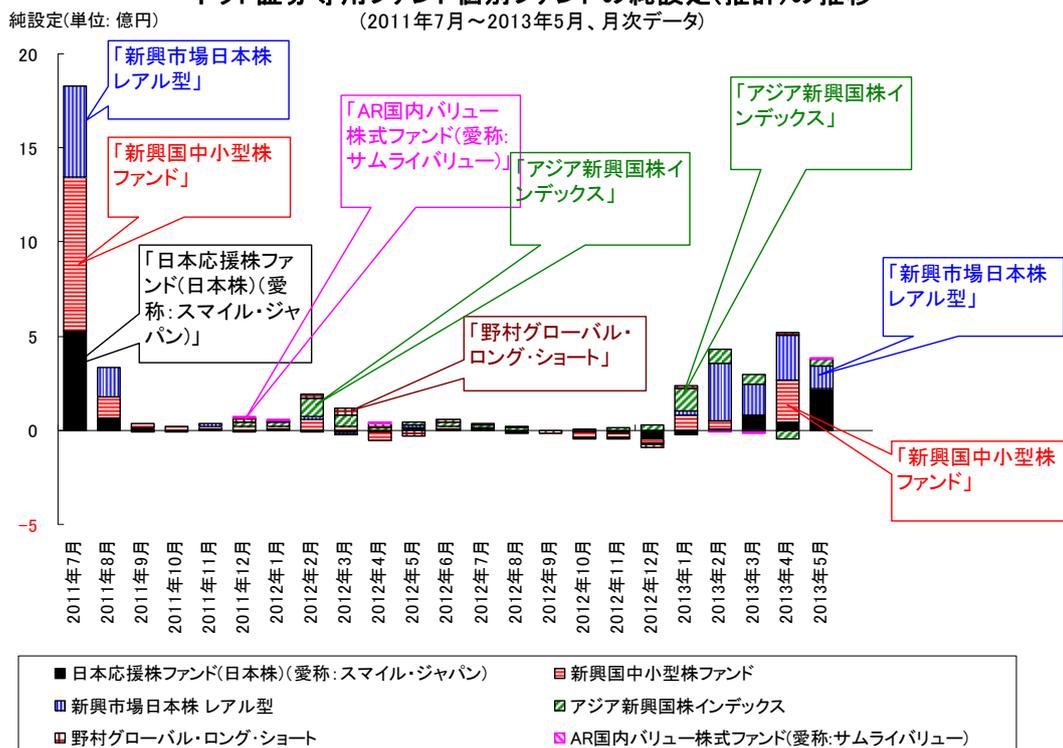
ネット証券専用ファンド個別ファンドの純資産の推移

(2011年7月末～2013年5月末、月末データ)

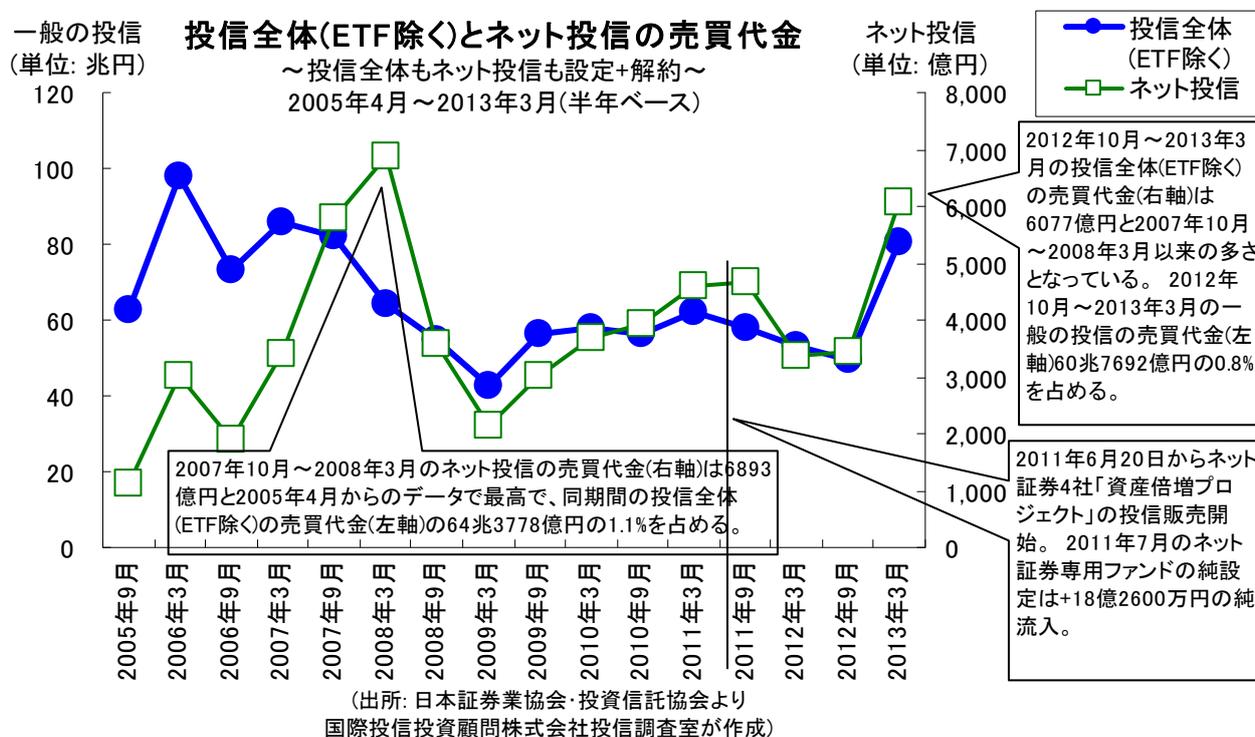


ネット証券専用ファンド個別ファンドの純設定(推計)の推移

(2011年7月～2013年5月、月次データ)

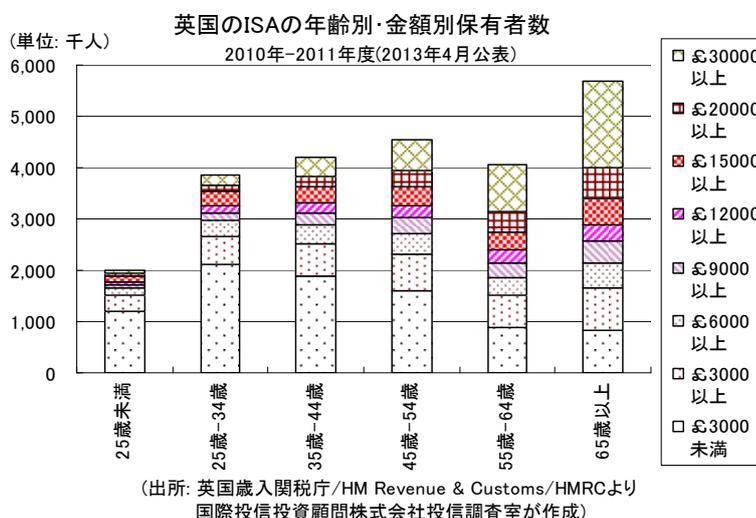


「ネット株と株式全体」、「ネット株とネット投信」、そして「ネット証券専用ファンド」について見てきたが、ネット投信と一般の投信との比較も見たいところ。そこで、下記にグラフ「投信全体(ETF 除く)とネット投信の売買代金」を作成した。2012年10月～2013年3月の投信全体(ETF 除く)の売買代金は6077億円と2007年10月～2008年3月以来の多さとなっている。2012年10月～2013年3月の一般の投信の売買代金60兆7692億円の0.8%を占める。ネット投信は一般の投信と比べ、かなり小さいこととなる。もちろん、その分、今後にかかる期待は高いとも言える。



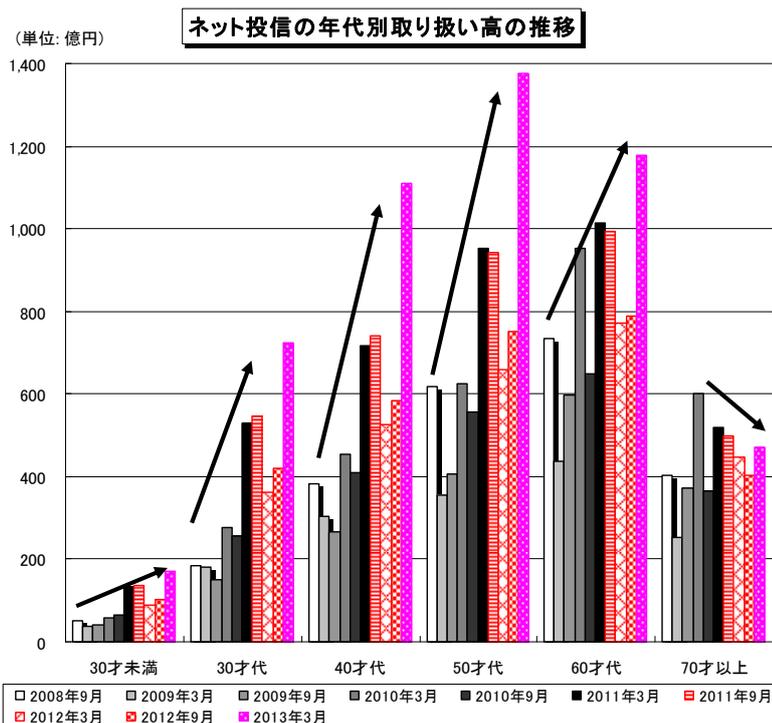
来年から始まる日本版ISA(NISA/ニーサ)でネットを活用して、より成功に導くにはどうすれば良いだろう? その一つとして考えられるのが、投資家のニーズに合った情報提供という事である。本家英国のISAファンドで最大チャネルのファンド・プラットフォーム(Fund Platforms/棚台)最大級の会社、ハーグリーブス・ランズタウン(Hargreaves Lansdown)も、ヘルプデスクでの電話対応のほか、投信の評価や中立なレポートなどの情報を豊富に用意している。

ここで注意しないといけないのが投資家のニーズに合った情報提供ということである。ISAにおいて資産形成層を重視すべきということに異存はもちろんだが、だからと言って若い資産形成層ばかりを重視して情報提供をすれば、そうではない年代の層とニーズが合わなくなる。仮に若い資産形成層が「長期に値上がりが見込める株の情報が欲しい」と言っても、そうではない年代の層が「よりリスクの低いグローバル債券ファンドやREITファンドの情報が欲しい」と言えばそれに対応した情報が重要になるということである。ヘルプデスクでの電話対応なども同様である。右記にグラフ「英国のISAの年齢別・金額別保有者数」を作成したが、英国ではISA口座金額で、65才以上が最も多くなっている。

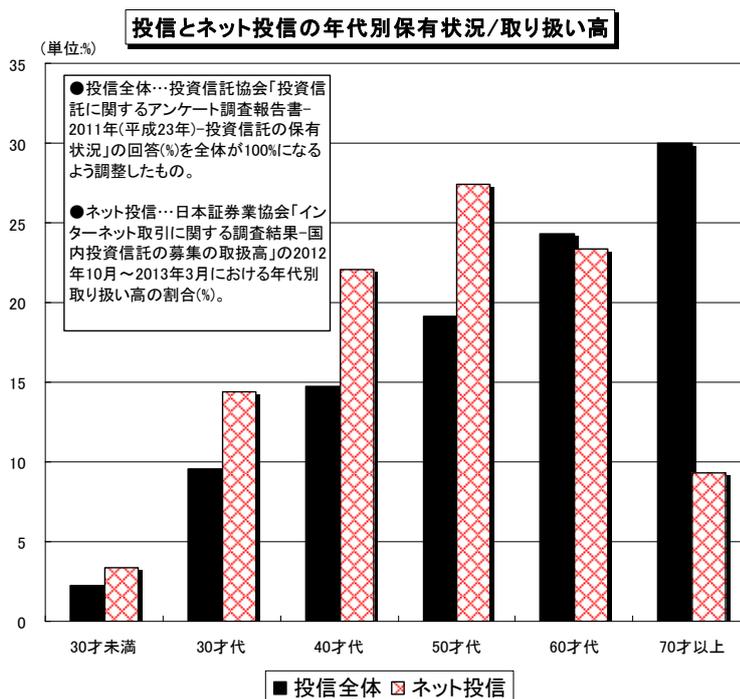


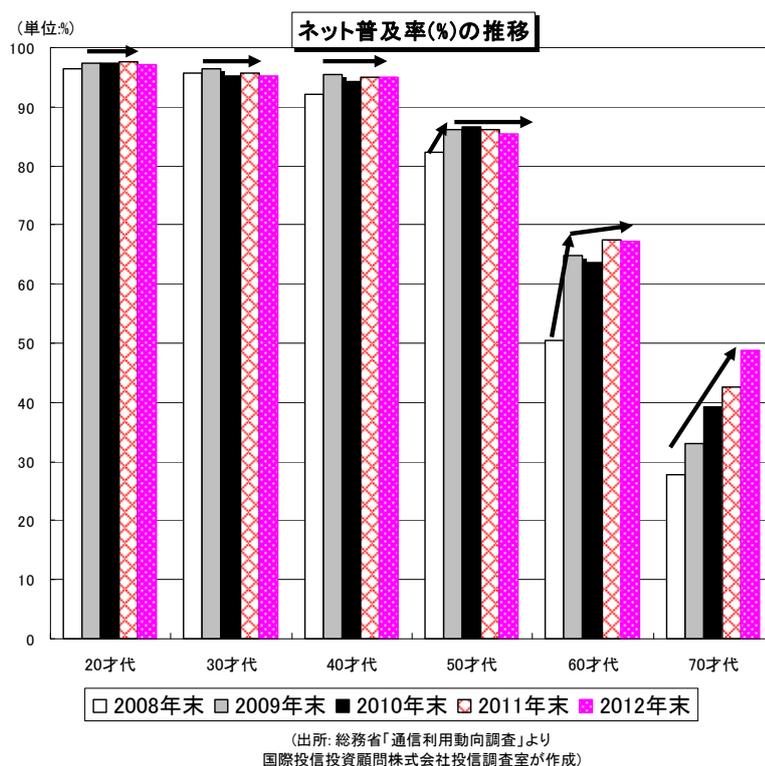
実は日本でもネット投信で活発に売買(設定・解約)しているのは若い資産形成層だけではないのだ。と言うより、そうではない層が圧倒的に多いのである。下記にグラフ「ネット投信の年代別取り扱い高の推移」を作成したが、2012年9月までは60才代が最大の売買(設定・解約)、2012年10月～2013年3月では50才代が最大の売買(設定・解約)となっている(*50才代の次が60才代で、その次が40才代)。

日本版ISA(NISA/ニーサ)でネットの活用を成功するには、こうした50才代や60才代への情報提供を疎かにしないこと、そうした世代のニーズにも合った情報提供が重要になると思われる。



(参考)





[参考ホームページ]

2013年2月1日付 ウェル KAM-NISA [Vol.2]「潜入レポート！本家英国でのISAー実際に、銀行へ行ってみたらー」…
「<http://www.kokusai-am.co.jp/news/jisa/pdf/130201.pdf>」、英国歳入関税庁/HM Revenue & Customs/HMRC の
「Individual Savings Account(ISAs)」は「<http://www.hmrc.gov.uk/isa/index.htm>」、日本証券業協会「インターネット取引に
関する調査結果」…「<http://www.jsda.or.jp/shiryochousa/interan.html>」、ネット証券4社「資産倍増プロジェクト」…
「<http://net-toushin.jp/>」、投資信託に関するアンケート調査報告書…「<http://www.toushin.or.jp/statistics/report/research/>」、
総務省「通信利用動向調査」…「<http://www.soumu.go.jp/>」。

以上
(投信調査室 松尾、窪田)

本資料に関してご留意頂きたい事項

本資料は日本版ISA(少額投資非課税制度、愛称「NISA/ニーサ」)に関する考え方や情報提供を目的として、国際投信投資顧問が作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。なお、以下の点にもご留意ください。

- 本資料中のグラフ・数値等はあくまでも過去のデータであり、将来の経済、市況、その他の投資環境に係る動向等を保証するものではありません。
- 本資料の内容は作成基準日のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 本資料は信頼できると判断した情報等をもとに作成しておりますが、その正確性、完全性等を保証するものではありません。
- 本資料に示す意見等は、特に断りのない限り本資料作成日現在の国際投信投資顧問 投信調査室の見解です。

また、国際投信投資顧問が設定・運用する各ファンドにおける投資判断がこれらの見解に基づくものとは限りません。